

第2学年 国語科学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 単元 「自分とくらべて、かんそうを書こう」

2 単元について

本単元では、物語文を自分と比べながら読み、いちばん心に残ったところを中心に感想を書いて紹介する活動を行う。この単元で扱う「わたしはおねえさん」という作品の主人公は、児童と同じ2年生であることから、主人公の行動や作品中の出来事は、似たような体験をしている児童も多いと思われる。自分と主人公を比べて感想を書くのに格好の作品であると言える。また、単元を通して「心に残ったこと」を書き出し、その理由を自分の生活経験をもとにまとめることで、主人公と自分とを比べて読む力をつけていくことができる。低学年の児童は、物語の登場人物と自分を同化しやすいが、2年生のこの時期は同時に客観的に眺める目をもち始めるという発達時期でもある。「自分だったら…」「自分にも…」と自己内対話を繰り返しながら読むことで、自分の体験と重ねたり、想像を広げたりして、読みを深めることができる。この単元で、自分の経験と結び付けて感想をもつ活動は、中学年での、「文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと」につながっていく大切な入口となる。

本学級の児童は、第2学年「スイミー」では、人物の行動や出来事を捉え、あらすじをまとめる学習を行ってきた。叙述に着目して読むことにより、場面ごとのスイミーの様子や場面の様子を想像することができるようになってきている。また、「お手紙」では、言動を基に、人物の心情や様子を具体的に想像する学習を行ったことにより、あらすじを捉えたり、人物の言動を基に場面の様子を想像したりすることができるようになってきた。しかし、物語の内容と自分の経験や内面を結び付けながら読むことは不十分である。そこで、本単元では、登場人物と自分を比べる視点をもちながら、物語を読むことに発展させていきたい。また、学習の進め方については、問いに対して自分の考えとその理由を表現する学習活動を経験し、自分の考えに理由をつけて表現することはできるようになっている。しかし、根拠が主観的になってしまうことがあり、十分に育っているとは言えない。そこで、自分の考えの根拠となる叙述を明確にさせ、自分の考えとその理由を表現する力を高めていきたい。

指導にあたっては、まず「出会う」段階では、主人公は児童と同じ2年生であることを知らせ、「自分と比べて感想を書こう」という学習課題を設定する。その後、叙述から主人公の設定をまとめ、主人公の行動や心情に自分を重ねて学習を進めていくことができるようにする。

「追究する」段階では、主人公の言動にサイドラインを引かせ着目させることで、言動を中心に想像を広げて読むことができるようにしていく。その際、心に残った「したこと」や「言ったこと」をカードに書き溜めていき、紹介する活動を行っていきたい。その中から、「不思議だな」「分からないな」というカードの中から課題を設定していく。読みを進めていく際は、自分と比べて読むために、主人公と対話しながら読むことを大事にしたい。そのために、すみれちゃん、かりんちゃん、ナレーターに分かれて役割読みをさせる。また、似た言葉を比較したり、動作化を取り入れたりとすることで、登場人物の心の変容を捉えさせたい。そうすることで、すみれちゃんと自分の気持ちを重ね、比べて読む楽しさを味わわせていきたい。さらに、すみれちゃんと自分自身の体験が同じところや違うところの視点を基に感想を書かせ、書きためていくようにする。「生かす」段階では、これまでに書き溜めておいたカードを基に心に残ったことを振り返る。その中から、いちばん心に残ったことを選ばせ、自身の体験と結び付けた感想を書かせる。感想には、①いちばん心に残ったこと②そのわけ③自分とつなげて考えたことがあらわれるようにする。最後に、同学年の主人公が登場する他の作品を紹介することで、今後の読書意欲につなげていきたい。

3 単元の目標

- 身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができるようにする。
(知識及び技能)
- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができるようにする。
(思考力・判断力・表現力等)
- 文章の内容と自分の体験と結びつけて、感想をもつことができるようにする。
(思考力・判断力・表現力等)
- 主人公の心情について考えるとともに、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
(学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準

ア知識・技能	イ思考・判断・表現	ウ主体的に学習に取り組む態度
・身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	・場面の様子に着目し、登場人物の行動や心情を具体的に想像している。 ・文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想や考えをもっている。	・積極的に登場人物の行動や気持ちについて叙述を基にして捉え、自身の体験と結びつけて考えようとしている。

5 単元計画（10時間）

段階	時	目標	学習活動	評価規準
出会う	1	題名やリード文から物語を想像し、初発の感想を書くことができる。	○「自分とくらべてかんそうを書こう」という学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。	学習の見通しをもち、すみれちゃんと自分を比べて読むことに興味をもって取り組もうとしている。【態度】
	2	「自分と比べて」という視点を意識して物語を読むことができる。	○行動や会話などから、すみれちゃんの人物像をまとめる。	叙述から、すみれちゃんの人物像を読み取っている。【思・判・表】
追究する	3	人物の言動に着目し、心に残ったことを見つけることができる。	○心に残った言動をカードに書き抜く。 【わけ】選んだ叙述が心に残ったわけ、自分の体験	すみれちゃんの言動を確かめ、心に残った行動や会話を、わけとともにカードに書いている。【思・判・表】
	4	友達の心に残ったことを聞き合うことで、考えの多様性に気づくことができる。	○カードをもとに心に残ったところを紹介し合う。	友達の発言を聞き、登場人物の行動や心情への想像をより具体的にしている。【思・判・表】
	5	場面の様子に着目して、すみれちゃんの言動について想像を広げて読み、その理由をまとめることができる。	○すみれちゃんの言動について、その理由を考える。 【わけ】すみれちゃんの行動のわけを捉えることができる叙述	すみれちゃんがじっとノートを見ていたわけを、すみれちゃんの人物像や場面の様子に関する叙述を基に記述をしている。【思・判・表】
	6 本時	場面の様子に着目して、すみれちゃんの言動について想像を広げて読み、その理由をまとめることができる。	○すみれちゃんの言動について、その理由を考える。 【わけ】すみれちゃんの行動のわけを捉える	すみれちゃんが絵を消さなかったわけを、すみれちゃんの人物像や場面の様子に関する叙述を基に記述をし

		とめることができる。	ことができる叙述	ている。【思・判・表】
生 か す	7	これまでに書きためてきたカードを読み返し、心に残った理由を考えることができる。	○すみれちゃんの言動と自分を比べて、いちばん心に残ったことを書く。	すみれちゃんの言動を振り返り、いちばん心に残ったところを、わけとともにまとめている。【思・判・表】
	8・9	場面の様子と自分の内面を比べたり、重ねたりして、想像を広げて感想を書くことができる。	○いちばん心に残ったすみれちゃんの言動について、自分と比べて考えたことをもとに、感想を書く。 【わけ】 いちばん心に残った言動に選んだわけ	心に残ったところについて、すみれちゃんと自分を比べた感想を書いている。 【思・判・表】 自分の体験と結びつけた感想を書いて、語彙を豊かにしている。【知・理】
	10	友達と自分の感想を読み比べて、同じところや違うところに気づき、感想を伝え合うことができる。	○書いた感想を友達と交流する。 ○学習を振り返り、「この本読もう」で紹介されている本の読み聞かせを聞く。	友達の感想と自分の同じところや違うところに気付いている。 【思・判・表】

6 本時 (6/10 時)

○主眼

自分の経験と比べながら、すみれちゃんの言動について想像を広げて読み、その理由をまとめることができる。

○展開

過程	学習活動	○手立て 【】 評価
見 通 し を も つ	1 前時の学習でもった問いを確認し、本時のめあてをもつ。	○ 前時までのすみれちゃんの行動に関する問いを提示し、問いを解決しようとする意味をもたせ、本時学習のめあてをつかませる。
	2 すみれちゃんの人物像を振り返る。	○ わけを考える視点をもたせるために、すみれちゃんの人物像を振り返らせる。 ○ サイドラインを引いた主人公の言動に着目し読むことができるようにする。
	3 主人公の行動のわけを、叙述を基にして考える。 【わけを表現する活動】	○ 主人公が絵を消さなかったことを、自分と比べながら読むことができるように、叙述を基にわけを考えさせる。

(めあて) すみれちゃんが絵を消さなかったわけを考えよう。

評価のものさし

・すみれちゃんが絵を消さなかったわけを言葉や文をもとに自分の気持ちと比べながら考えることができる。

考えをもつ

考えを広げ深める

考えを振り返る

(1) わけに関連する叙述を基に、考えをもつ。

【期待する児童の表現】

すみれちゃんが絵を消さなかったのは、自分のまねをしたかりんちゃんが、かわいくなったからだと思います。わたしは63pでかりんちゃんが「おべんきよ」と言ったところから考えました。

【期待する児童の表現】

すみれちゃんが絵を消さなかったのは、その絵は大切なコスモスだと気づいたからだと思います。ぼくは65pのかりんちゃんが、庭のコスモスを指したところから考えました。

(2) 考えたわけを交流する。(全体交流)

3 似た経験がないか想起したり、主人公だったらどうするか想像したりして、感想をもつ。

・すみれちゃんが、らくがきを消さなかった気持ちがわたしにも分かりました。わたしも、小さい子が自分の育てている花を描いてくれたら、うれしくなってとっておくと思います。

4 本時学習をまとめ、振り返る。

(まとめ) すみれちゃんは、お姉さんとしてかりんちゃんの気持ちを考え、絵を消さなかったと考えられる。

(わけ) すみれちゃんの行動のわけを捉えることができる叙述

- すみれちゃんの言動について前時までに整理したものを提示することにより、物語全体のすみれちゃんの言動に関する叙述をわけにして考えるようにする。
- 主張とそのわけを明確にさせるために、ワークシートの記述欄を分けた形に構成する。

【評価規準】(思・判・表)

すみれちゃんが絵を消さなかったわけを、すみれちゃん的人物像や場面の様子に関する叙述を基に記述をしている。

- 友達の話を聞くときに、主張とわけが自分と比べて同じか違うかという視点をもたせて交流させ、考えの多様性に気付かせるようにする。
- 児童の考えを板書していくことで、前から主人公の気持ちが動いたことを捉えさせる。
- 友達の考えを聞き、新たに分かったことや考えたことを付け加えてもよいことを知らせ、交流活動による考えの広がりをもたせる。
- 話型を提示することにより、自分と比べて感想をもつことができるようにする。
- 「評価のものさし」を基に、学習を振り返らせることで、達成感を味わうことができるようにする。
- 自分と比べて実感できるように、振り返りシートを用いて学習過程を振り返らせる。
- いちばん心に残ったところはどこか問うことにより、次時学習の見通しをもたせる。